

長沼町子ども発達支援センター 「ぶれいらんど」だより

くれよん



2018年7月

無事、町内保育園・教育機関の運動会が終わりましたね。子どもたちが笑顔で活動できている姿を見て、とても嬉しく思いました。『私たちの人生は、私たちが費やした努力だけの価値がある』という言葉もありますが、きっと今年の経験が今後生きてくると思います。(*^_^*)

平成30年度児童虐待防止講演会

今年も下記の通り、講演会を行います。参加希望の方はセンター職員まで直接お知らせいただくか、お電話ください。当日の飛び入り参加も可能ですが、資料の準備の都合上、事前にお知らせいただけると、ありがたいです。

日時	7月19日(木) 18:30~20:00
場所	りふれ 2階 研修室
内容	タイトル未定
講師	牧田 浩一 氏 (北星学園大学 福祉心理学科 教授) 予定
参加費	無料
申込先	りふれ 子ども発達支援センター TEL: 0123-82-5555 (内線 261)



7月の予定

◆プール指導

5日、12日、19日、26日

16日は祝日、25日は宮崎
研修の為、指導はお休みです。

長沼町子ども発達支援センター

お子さんについて気になることがあれば
いつでもご連絡ください(*^_^*)

場所 長沼町南町2丁目3番1号
総合保健福祉センターりふれ2階
電話 0123-82-5555
(内線261)

受付時間 平日 8時30分~17時

※料金の徴収はございません。

ほかの子と比べない

子どもたちは、誰かと比べられて自分が出来ないとか、みんなと違うということにまず傷つきます。「みんな普通にできるのに、どうしてお前はできないの？」この言葉は、どうしても理由を聞かれているのではなくて、非難されていると捉えられます。

自分のアンバランスさを非難されることは、人格を否定されることになります。これが発達障害の子どもが傷つく構造なのです。ほかの子どもと比べられた嫌な記憶を持っていない発達障害の子どもはいないはずです。

私たち大人は子供を励ますため、がんばらせようとするために、よく「比較」を使います。「みんなができるのだから、がんばろう」「普通の子はできるんだよ」と。この「普通の子」という言い方からして、標準という見えないものと比較しているわけです。



それはたしかに、自分は人一倍「普通」だと感じている子どもにとっては「よし、がんばろう」という気持ちになるのかもしれませんが、そのことで傷ついてきた子どもたちには「どうせ自分はできないよ」と思わせてしまうのです。

比較され、心に深い傷を負った子ども、特に発達障害の子どもにとって競争心をあおってがんばらせようとするこの「比較」は、禁じ手なのです。これを守るだけで、発達障害の子どもたちの心のバランスの回復を支えることになると思います。

発達障害と子ども「らしさ」 著：田中 哲